

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちとせ児童発達支援センターはる（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和8年4月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53 (回答者数)	27
○従業者評価実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和8年4月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月11日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【支援】こどもとその家族の願いをに寄り添いつつ、個々の子どもに応じた指導内容を計画し目標を立て、集団や個別での療育指導・支援を行っています。専門職による支援の質の向上と、こどもや家族を理解し支援していくための、研修や職員間の連携を継続していきます。	支援前や後に打ち合わせを行い、子どもの理解を共有し深めることを継続して行っています。職員研修を年間計画に基づき実施することで職員の研鑽をしています。	日々の支援を充実させるために、職員研修等で支援の質を高めることや職員間の連携を継続していきます。職員の業務を効率的に行うなどの工夫をしながら、根幹となるこどもや家族への支援の充実を図っていきます。
2	【環境整備】屋内や玄関の段差をなくし、バリアフリー化しています。個別指導室にはサスペンションエクササイズができるように『レッドコード』と『スパイダー』という運動機器を設置しています。STなどの個別指導用に個室を複数用意しています。	子どもたちが安全かつ主体的に活動できるよう施設設備を整えています。年度末には支援を見直し、子どもの成長と今後の課題に応じて、集団編成を変えるなどの工夫をしました。	継続して、こどもたちが持つ力を十分に発揮し活動しながら、生き生きとした生活を過ごせるよう、環境の整備や教材、活動の工夫をしています。
3	【学校との連携】入学後の学校での困り感や保護者の悩み・不安に応じて、学校との会議を実施したり、電話による打ち合わせをするなど、学校生活を安心して送れるように連携を継続しています。また、工房椅子の貸し出しなど環境を整える支援も行っています。	保護者の不安や悩みに寄り添い、必要なアドバイスや情報提供を行います。電話による相談、面談にできるだけ早期に行うようにしています。学校との打ち合わせでは、担当者や児童発達支援管理責任者、必要に応じて元自立活動教諭が同伴し、学校の教育課程を前提とする生活場面でのこどもの支援について提案しています。	引き続き、学校生活を営むために必要な支援を行います。そのために、こどもが日々の生活を主体的に送るための支援について、検討し個々のこどもの状況に適した指導ができるよう、職員間で学びあいや情報共有していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学齢期の保護者支援	こどもの成長に伴い、小学校・中学校において、個々のこどもの状況や学年ごとに、直面する課題や困りごととは大きくことなります。入学時には新たな環境への適応に不安を感じやすく、卒業が近づくにつれて進路への見通しや準備が求められるなど、保護者の悩みは多様かつ変化していきます。さらに、思春期や成長の節目においては、情緒の不安定さや環境へのストレスが表れやすく、家庭でも子どもへの対応に迷いや戸惑いが生じることがあります。	こうした背景を理解し、個々のこどもや保護者の状況に応じた支援や情報提供を心がけていきます。また、保護者同士が気持ちを共有できる場としての保護者交流会開催を継続してまいります。学齢期の子どもを理解や保護者の困り感や心配事に適時支援していくことは簡単ではありません。職員同士の話し合いながら、チームで進めていけるよう取り組みを工夫していきます。